

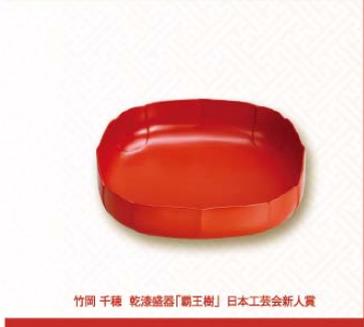
卓越した精緻の技と美  
人間国宝から新進気鋭の若手まで



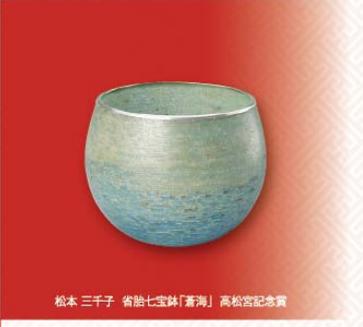
杉浦 美智子 模塑紙貼「船出」東京都知事賞



田辺 小竹 千筋組花籃「創造都市」日本工芸会奨励賞



竹岡 千穂 乾漆盛器「霸王樹」日本工芸会新人賞



松本 三千子 省胎七宝鉢「蒼海」高松宮記念賞



高橋 奈己 白磁水指 日本工芸会新人賞



城間 栄順 琉球紅型染着物「彩海」(部分) 日本工芸会奨励賞



丸山 浩明 楳引楓流象嵌飾箱 日本工芸会総裁賞

第63回

平成29年 2月23日(木) — 3月12日(日)

会期中無休

陶芸／染織／漆芸／金工／木竹工／人形／諸工芸

The 63rd Japan Traditional Kōgei - Art Crafts - Exhibition

# 日本伝統工芸展

**まもなく開幕！**  
開会式情報、主要作品解説など追加しました。

**会期** 平成29(2017)年  
2月23日(木)～3月12日(日)  
会期中無休

**開館時間** 9:00～17:00  
※金曜日は19:00まで、入館は閉館30分前まで  
※2月23日は10:00開場

**料金**

一般	700円	(500円)
高・大学生	400円	(200円)
中学生以下	無料	

※( )内は前売・20名以上の団体料金



- JR広島駅より約1km ●広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる～ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

# press release

陶芸／染織／漆芸／金工／木竹工／人形／諸工芸

The 63rd Japan Traditional Kōgei -Art Crafts- Exhibition

第63回

# 日本伝統工芸展

— 卓越した精緻の技と美 人間国宝から新進気鋭の若手まで —

## 【開会式情報】

次の通り、「第63回日本伝統工芸展」の開会式を行います。

報道各位におかれましては、取材・広報にご協力いただきますようお願いいたします。

日時／平成29年2月23日(木) 午前9時30分～

場所／広島県立美術館 3階企画展示室入口 ロビー

内容／主催者紹介・挨拶、来賓紹介、県内入選者紹介、テープカット、内覧

司会 NHK放送局キャスター 平井友莉

## 【開催趣旨】

日本伝統工芸展は、日本の風土の中から生まれた世界に誇る工芸技術を、発展継承させることを目的に、昭和29年に創設されました。以来、その伝統をよく理解しながら一層技術を磨いて、今日の生活に即した新しいものを築き上げることを目標としています。

第63回となる展覧会では、人間国宝(重要無形文化財保持者)から新進気鋭の若手まで、陶芸、染織、漆芸、金工、木竹工、人形、諸工芸の7部門で、日本を代表する作家の作品305点を展示します。なお、広島県からは9名の作家の作品が入選しています。



高橋奈己「白磁水指」  
日本工芸会新人賞

## 【展覧会の構成】



城間栄順「琉球紅型染着物『彩海』」(部分)  
日本工芸会奨励賞



竹岡千穂「乾漆盛器『霸王樹』」  
日本工芸会新人賞

### I 陶芸

土器、炆器、陶器、磁器というようにやきものは、原料とその性質から分類されます。さまざまな釉薬や上絵具による絵付け、窯の中で偶然的に発生する窯変などバラエティに富んだ作品が一堂に並びます。

### II 染織

染織は文字通り、染めることと織ることをいいます。木綿や絹、芭蕉や和紙などを素材として用いた、染めと織り、刺繍などによる色とりどりのきものが見る人を魅了します。

### III 漆芸

漆芸は、東アジアや東南アジアで発達した東洋独特の工芸で、各地域で特色のある漆芸品が作られてきました。漆の素材としての魅力を活かした髹漆(きゆうしつ)、金粉を使った華やかな蒔絵など多彩な作品を展示します。

### IV 金工

金工は文字通り、金属による工芸をいいます。素材は、金、銀、銅、鉄、異なる金属を合わせた合金など。叩いて成形する鍛金、熱く溶かした金属を鋳型に流し込んで成形する鋳金、彫ったり鍍金したりして加飾する彫金など様々な技法による作品を紹介します。

### 【展覧会の構成】

#### V 木竹工

木竹工は、木工と竹工をいいます。木工の技法は大きく分けてロクロを使った挽物(ひきもの)、削って形を作る割物(くりもの)、薄い板を曲げて成形する曲物(まげもの)、板状の木を複雑に組み合わせた指物(さしもの)などがあります。ケヤキや黒柿、松や黒檀など木の性質を活かして作品制作が行われます。竹工は、真竹や孟宗竹などをそのままあるいは細く割ってヒゴとし、編んで作品とします。

#### VI 人形

伝統的な人形制作は木彫や桐塑、張子や陶磁製の陶胎があります。作品の背景にあるだらう物語や伝説はもちろん、衣装の布選びや小物まで、作者は工夫をこらしています。

#### VII 諸工芸

諸工芸には、ガラスや七宝、玉や象牙、截金や硯などが含まれます。ガラスの成形法には、型を使う方法と使わない方法があり、切子や腐蝕などで加飾します。七宝は銀や銅などの素地にガラス質の釉薬を焼き付けるもので、有線七宝、無線七宝、省胎七宝などがあります。メノウや水晶をくりぬいた玉、染めたり彫ったりした象牙(現在はマンモスの牙が多い)、線状に切った金箔などを貼ることで文様を表した截金、山口県や山梨県などが特産の硯といった多彩な作品をご覧ください。

### 【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。



丸山浩明 「蠟引楓造象嵌飾箱」  
日本工芸会総裁賞



杉浦美智子 「桐塑紙貼『船出』」  
東京都知事賞



松本三千子 「省胎七宝鉢『蒼海』」  
高松宮記念賞

## 【主要作品解説 受賞作品から】

### 丸山浩明「蠟引楓造象嵌飾箱」日本工芸会総裁賞

箱の先端を小さく削った曲面構成のフォルム。全体を包み込んだ白い楓の木目には波紋が交錯する水面が表現されている。内側に収められた二段の重箱は黒味のある楠で作られ、岩礁に見立てられているという。木のテクスチャーへの眼差しがフォルムとモチーフの魅力的な関連性を生み出している。



### 萩野紀子「鍛矧合壺『線』」日本工芸会会長賞

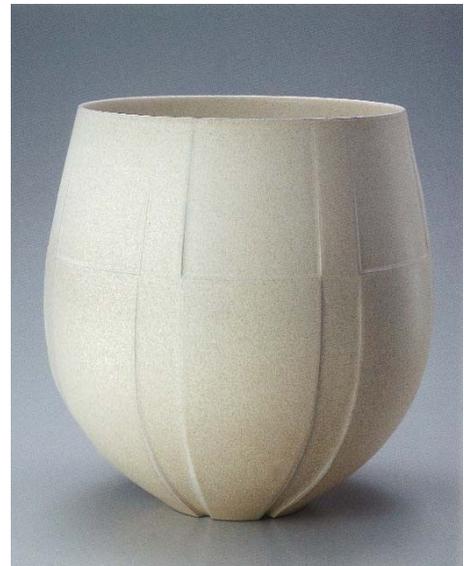
銀と赤銅（銀と金の合金）の棒を300本以上成形し、蠟付けではぎ合わせ、鍛金により器のかたちに仕上げ、部分的に金の装飾を施している。線の幅がそこからふっくらとした胴部の膨らみに応じて変化し、口部に向かって細く流れるような表現が美しい。



## 【主要作品解説 県内入選作品から】

### 今田拓志「隔壁の陶」

岡山県生まれ。東京芸術大学へ進学した作者は、思い通りにならない陶芸にこそやりがいがあると感じて陶芸を選んだという。現在は広島県北広島町に居を定めて制作している。「隔壁の陶」のシリーズの最初期作品は2015年、第70回新匠工芸会展で富本賞を受賞して、注目を集めた。表面に垂直、水平のラインが面の凹凸で配置され、静かな安定感と優美さを感じさせる。やきものだから実用品として見るのではなく、器の形をしたオブジェだと思ってほしいと作者は語った。



### 栗根仁志「七宝箱『朝まだき』」

広島市生まれ。父は七宝作家・栗根昭二郎。幼少の頃から七宝の材料を玩んできた作者は、香川県漆芸研究所で漆芸を学び、重要無形文化財保持者の山本晃に金工を学んだ。七宝技法にとどまることなく、漆芸や金工など様々な技術や考え方を柔軟に取り入れながら制作している。今、作りたいのは空気感。この作品では、やわらかさを感じさせる楕円形の箱に、風で揺らぐ植物を配し、20種以上の釉薬を用いて美しいグラデーションによる、朝の爽やかな雰囲気が実現している。



### 【関連イベント】

#### 記念講演会「伝統の工芸ということ—現代を見つめる—」（広島県立美術館友の会共催）

日時：2月25日（土）13:30～15:00（開場13:00）

講師：諸山正則（東京国立近代美術館工芸館主任研究官）

場所：地階講堂 ※聴講無料、申込不要、定員200名、当日先着順

#### 子どもワークショップ「ギャラリートークに挑戦しよう！」

内容：前半では作家と学芸員から作品の見どころや説明の仕方・話し方を学び、後半では子ども達が保護者や一般来場者を前に展示室でギャラリートーク（作品解説）を行います。学芸員のタマゴ、この指とまれ！

日時：3月5日（日）13:00～16:00（受付開始12:45）

講師：今田拓志（陶芸家、日本工芸会正会員） & 福田浩子（広島県立美術館学芸課長）

場所：3階企画展示室・大会議室 受付：3階ロビー 対象：小学校高学年以上

参加料：児童無料、保護者は要入場券 募集人数：小学生以上の児童および保護者10組

（要事前申込、申込については下部参照）

#### ギャラリートーク

日時	講師（内容）
2月25日（土）11:00～	田代昭夫（漆芸）
2月26日（日）11:00～	栗根仁志（七宝） 13:30～ 佐故龍平（金工）
3月4日（土）11:00～	松岡裕治（木工） 13:30～ 木村芳郎（陶芸）
3月5日（日）11:00～	今田拓志（陶芸） 15:00～ 子どもギャラリートーク（10点程度）
3月11日（土）11:00～	井戸川豊（陶芸） 13:30～ 菅坂安子（七宝）
3月12日（日）11:00～	金城一国斎（漆芸） 13:30～ 福田浩子（全般）

会場：3階企画展示室 ※要入館券。申込不要。会場入口にお越しください。

#### アートと私の美味しい時間“日本酒が繋ぐ、イタリア料理と伝統工芸”

日時：3月3日（金）17:00～20:30頃（受付開始16:30、1階ロビーにて）

会場：3階企画展示室 & 1階レストラン Zona ITALIA in Centro

参加料：5,200円（税込）（特別展鑑賞券・ディナー・日本酒3杯、トーク含む）

出演：栗根仁志（七宝作家）、藤井善文（藤井酒造五代目当主）

定員：50名（要事前申込、申込については下部参照）

#### ウェブライター大募集

日時：3月3日（金）17:00～18:30

受付：3階ロビー 場所：3階企画展示室

対象：インターネットで情報発信をされている一般の方（参加者は本展にご招待）

#### 申込方法（ワークショップ、アートと私の美味しい時間）

お電話により、参加を希望するイベント名と月日、お名前、電話番号などをお知らせください。先着順で受け付け、定員になり次第締め切ります。（申込電話番号：広島県立美術館082-221-6246）

### 【縮景園連携】

ワンコイン縮景園 本展入館券のご提示により、100円で縮景園にご入園いただけます。

縮景園共通券 一般800円 高・大学生500円

### 【県美×ひろ美 相互割引】

「日本伝統工芸展」の会期中、2館で相互割引を実施！下記の特別展チケット(半券可)を受付にご提示いただくと、本展当日料金より100円割引。詳しくは各館にお問い合わせください。※1枚につき1名様限り、他の割引との併用はできません。

ひろしま美術館 (中区基町3-2[中央公園内] / TEL 082-223-2530)

ランス美術館展 2017年2月11日～2017年3月26日

### 【特別メニュー】

#### 1階Zona ITALIA in Centro(ゾーナ イタリア イン・チェントロ)

日本伝統工芸展の特別メニューとして恒例の「特集！イタリア郷土料理」。今年で4回目となる期間限定の特集ですが、まだまだイタリアの伝統的な郷土料理は沢山あります！今回は、春の訪れを意味する伝統的なイタリア料理「リーゼ・エ・ビーゼ」(グリーンピースのリゾット)や古くからナポリで食べられてきた「スパゲッティ・アツラ・プッタネスカ」など全5品が登場予定！イタリア伝統の味を心ゆくまでお楽しみください。



特集！イタリア郷土料理

#### 3階ティールーム 徒夢創家(トムソーヤ)

前回の日本伝統工芸展で大好評だった「でっかいお餅のぜんざいセット」が復活です！日本で古くから親しまれてきた「ぜんざい」。ティールームでご提供するのは小豆の形がしっかり残っているため食べ応えがあります。あわせるお餅は注文ごとに焼き上げるため香ばしく、小豆との相性もぴったりです。本展会期中限定メニューです。



でっかいお餅のぜんざいセット

### 【開催概要】

メインタイトル: 第63回日本伝統工芸展

展覧会英語名: The 63rd Japan Traditional Kogei -Art Crafts- Exhibition

料金: 一般 700(500)円 高・大学生400(200)円 中学生以下無料

※( )内は前売り・20名以上の団体料金

・学生券をお求めの際は学生証のご提示ください。・身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳及び戦傷病者手帳の所持者と介助者(1名まで)の当日料金は半額です。手帳をご提示ください。

前売券販売所: 広島県立美術館、広島市・呉市内の主なプレイガイド、画廊・画材店、ゆめタウン、フジなど。

開催クレジット:

主催 広島県立美術館、NHK広島放送局、朝日新聞社、(公社)日本工芸会

平成28年度文化庁補助事業

問い合わせ先 広島県立美術館



〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail [bjksoumu@pref.hiroshima.lg.jp](mailto:bjksoumu@pref.hiroshima.lg.jp) (美術館総務課宛)

担当 総務課 檜原聡子、学芸課 福田浩子